



全国草原再生ネットワーク

ニュースレター vol. 31 (Jul. 2017)



土呂部の草原でのエクスカーション（栃木県日光市／笹岡達男氏撮影）

第 11 回理事会・総会が開催されました

第 11 回理事会・総会の報告

(増井大樹：滋賀県在住)

2017 年 6 月 25 日（日）第 11 回全国草原再生ネットワーク総会が栃木県日光市にて開催されました。当初は 6 月 24 日（土）に総会を開催予定でしたが、天候の都合により日光市土呂部の草原でのエクスカーションと日程を変更したため、この日の開催となりました。

特に 1 号議案である草原文献リスト整備事業および草原データベース整備事業では活発な議論がなされました。草原文献リストについては、前事業年度で 2 文献と書籍合わせて 58 件が登録されたこと、文献リストを精査した結果、重複している 14 件を削除したことが報告されました。また、文献リストを再整理し、検索性の向上のために、HP を改修してキーワード検索ができるように改良し、今後 HP 上で公開する予定であることが報告されました。文献リストを再整理した結果、過去に登録された文献やパンフレットなど、すでにオリジナルデータが見当たらないものもあったため、今後は文献リストの信頼性を確保するために、文献を登録した人や登録日、PDF データなどを記載するように文献登録のフォーマットを変更したいとの提案がありました。

草原データベース整備事業についても更新作業が実施され、草原データベースに記載されている草原の登録基準が明確でないという課題が浮かび上がったことが報告されました。これまでは、何らかの利用・保全・管理がなされていれば小さな草原でも掘り起こして登録するというところに重点が置かれていましたが、例えば管理といっても基準があいまいなため、どのような草原をデータベースに追加したらいいか判断が難しいとの意見が出されました。この意見に対し、登録の基準や登録の際の様式を決めてはどうかという意見や、情報を追加した人や日時を記載するようにはどうかとの意見が出されました。

3 号議案では、ヒヤリハットの事例について、収集がなかなかうまく進んでいないとの課題が出されました。これに対し、「阿蘇では管理・収集しているので、そこから情報を得てはどうか？」といった意見や「昨年度は事故が多かったが、事故の種類が変

わってきている気がする。特に火引きの事故が多かった。」との意見、「阿蘇だけでなく他の場所からも情報を集めるようにしたい」、「HP にヒヤリハット申込用紙があるがダウンロードしてまで情報を送ってくれる人がいないのが課題」との意見が出されました。これらの意見を受け、当ネットワークとしてもこれから起こるであろう事故に備えるため引き続きヒヤリハットの情報および事故の事例について情報を集めていきたいとの方向性が出されました。また、古い事例の方が利害関係がなく聞きやすい可能性があるため、古い事例についてもヒアリングを行ってはどうかとの意見や、ヒヤリハット事例だけでなく、各地の安全対策マニュアルや、安全のために取り組んでいる事例を集めてはどうかといった提案もありました。

そのほか、自治体ネットワークが設立したことで当ネットワークの担う仕事が増えてきているため、これまで通り任意団体でいいのかといった議論がありました。これに対し、自治体ネットワークとの連携を図ることや、自治体ネットワークの進展をみながら、法人格の取得も含め今後検討していけばいいのではないかと意見が出されました。

最後に、来年 5 月 12～14 日に宮崎県で第 12 回全国草原サミット・シンポジウムが開催されることが報告され、来年の草原再生ネットワーク総会は中国地方で開催することを決め閉会となりました。



エクスカーショ参加報告

(薄井創太：福島県在住)

6月24日(土曜日)に、栃木県日光市の土呂部採草地でエクスカーショを開催しました。土呂部採草地は、栃木県の北西に位置し、土呂部集落の周辺約5haにわたり広がっている草原で、秋になると茅ボッチが立ち並ぶ美しい風景が見られます。土呂部集落は、周囲を山々に囲まれた盆地状の地形となっています。土呂部集落はその地形の特性から、放射冷却により冷えた空気が盆地の底に溜まることで冷気湖が生成され、年間を通して冷涼な気候となっています。エクスカーショでは、日光茅ボッチの会の会長である飯村孝文さまにご案内いただきました。日光

茅ボッチの会は、土呂部採草地で希少な草原環境の保全と再生、茅ボッチのある里山風景の継承を目的として活動しています。

土呂部では、江戸時代から茅葺屋根の茅を採集するための茅場として草原を利用していました。1970年代に入ると、茅葺屋根の利用低下に伴い、茅場も放棄されていきました。しかし、同時期に土呂部では和牛が導入され、草原も茅場に替わり、牧野や採草地として利用されるようになりました。牧野、採草地としての草原利用は2000年ごろまで続きました。近年では、そのような草原利用も途絶えつつあり、管理放棄による遷移の進行や、ヒノキの植栽などにより、草原面積は減少してきました。

現在維持されている土呂部の採草地では、定期的



土呂部の草原

な低木や草の刈り取りと搬出によって維持されています。また、草原の植物をシカの食害から守るため、草原の周囲に電気柵が設置されています。採草地では、ワラビとススキが優占している環境が多く見られました。一部ではヤマドリゼンマイやトダシバが優占している環境も見られました。その他、適切な管理方法を調べるための、様々な方法で管理されている調査区が設けられていました。

土呂部採草地では、草刈りによって草原環境が維持されており、多くの草地生の希少な植物が生育しています。エクスカーショでは、スズサイコ、キセワタ、コウリンカ、などを見ることができました。また、アヤメ、ムラサキ、オカオグルマ、なども花をつけていました。その他、隔離分布種として知られるクロビイタヤを見ることができました。植物以外にも、草地生のチョウであるルリシジミ、キツネの巣穴、を見ることができました。採草地の麗には採草地が湛えた雨水によって維持されている湿原があり、栃木県ではここでしか見ることができなくなってしまった自生のミズバショウが豪壮な葉を広げていました。

エクスカーショを終え、宿に着いてからはエクスカーショの際にドローンで空撮した土呂部採草地の映像を参加者一同で鑑賞しました。空撮の映像では、周辺の植生や微地形、草原の美しい風景を観察することができました。近年、急速に利用が拡大



日光茅ボッチの会からの説明

しているドローンですが、草原とも親和性が高いように思います。最近では、茶草地での茶摘みの最適日を、ドローンを用いて判断する試みも行われています。ドローンにより、開けた草原を上空から一望できるため、今後、草原の観光 PR 動画の作成への利用や、野焼きの際の危機管理、防災への活用がま



ドローンを用いた撮影

すますます増えていくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、新村さまには限られた時間のなか、土呂部採草地への愛を感じさせる解説を交えながら、要所を押さえてご案内していただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



説明を聞く参加者

第 12 回全国草原サミット・シンポジウムに向けて

第 12 回の全国草原サミット・シンポジウムが、来年の春、宮崎県で開催されることは、以前にお知らせしたとおりです。今年に入り、次のサミット・シンポジウムへ向けてのプレシンポジウムの開催や、

準備委員会の発足が行われましたので、その様子を報告します。

ニュースレターでは、次のサミット・シンポジウムの内容など、順次掲載していく予定です。

第 12 回全国草原サミット・シンポジウム in 串間・川南大会 第 1 回実行委員会を開催しました

(中村正樹：川南町教育委員会)

平成 29 年 5 月 29 日(月)に宮崎県川南町役場において第 12 回全国草原サミット・シンポジウム in 串間・川南大会第 1 回実行委員会を開催しました。

実行委員会役員体制や事業計画、収支予算、イベントについて主な協議事項とし、各々承認されました。

役員は、実行委員長に宮崎大学農学部教授の西脇亜也氏、副実行委員長に串間市長の野辺修光氏、川南町長の日高昭彦氏を選任しました。

次回、第 2 回会議は、7 月に宮崎県串間市で開催し、イベント内容の詳細について協議する予定です。決定した内容については、随時お知らせしていきます。

<主な決定事項>

【実行委員長】

西脇亜也(宮崎大学農学部教授)

【副実行委員長】

野辺修光(串間市長)、日高昭彦(川南町長)

【大会日程】

平成 30 年 5 月 12 日(土)～14 日(月)

詳細は以下のとおりです

第 12 回全国草原サミット・シンポジウム串間・川南大会日程

【開催地】 宮崎県串間市、川南町

【開催日】 平成 30 年 5 月 12 日（土）～14 日（月）

【日程詳細】 12 日（土）：シンポジウム（基調講演、分科会）（会場）串間市

13 日（日）：現地見学会（都井岬（串間市）及び川南湿原（川南町））
交流会（会場）川南町

14 日（月）：分科会及びサミット（分科会、サミット）（会場）川南町

若葉薫る緑の美しい時期に開催する予定となりました。開催地である串間市と川南町は宮崎県の南部と中部に位置しており、距離にして約 100km、移動時間にして約 3 時間の位置関係にあります。

現地見学会は、野生馬で有名な都井岬、希少種の宝庫と言われる川南湿原植物群落を予定しています。移動時間が長くなる予定ですが、素晴らしい場所をご案内しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第 12 回全国草原サミット・シンポジウム in 串間・川南大会 プレイベントの開催について

（中村正樹：川南町教育委員会）

■ サムライの野生馬を追う！都井岬馬追い開催決定！

都井岬では、江戸時代初期から高鍋藩の牧場が開かれ、軍馬の生産が行われていましたが、その当時から続く馬が野生化したものが国指定天然記念物の岬馬です。現在、約 550ha（純草地は約 50ha）の面積に、およそ 110 頭の岬馬が周年自由放牧・自然繁殖で生息しています。馬追いは当初、ここで生まれた若駒を捕獲・搬出するため始まった伝統作業で、現在は岬馬を守る保護活動（寄生虫の駆除や健康診断）として、年に 1 回だけ実施されています。作業主体は保存会の都井御崎牧組合ですが、高齢化によって、この伝統作業の継続が危惧されています。

この都井岬馬追いを、全国草原サミット・シンポジウムのプレイベントとして、一般参加者を募集することとなりました！馬追いは、普段では知り得ない野生馬の姿を間近に感じられる貴重な機会です！野生馬の保存会や研究者との共同作業で、伝統ある馬追いを体感してみませんか？



【開催日】 平成 29 年 9 月 23 日（土）8:30～16:00

※小雨決行、荒天時順延：9 月 30 日（土）

【集合場所】 宮崎県串間市都井岬（朝 8:30 集合）

※早朝から夕方までの作業です。途中参加も可能ですが、都井岬には民宿が 3 軒ございます。前泊・後泊をお勧めします。

【参加対象】 高校生以上で足腰の健全な方 ※急峻な芝山や森林内を登り降りする作業です。

【費用】 高校生以上 税込 1,500 円（昼食・お

茶・保険料・参加記念帽子など)

【申込期限】平成 29 年 9 月 15 日（金） 夕方 17 時〆切

【作業の注意点】

○保存会のおじさんがリーダーとなって、5～6 人ずつ引率して指示をします。

○森林内の群れは獣道をふさいで道路沿いに追い出します。芝山では、馬を囲うようにラインディフェンスで追い込み柵へ！

○群れの行方を決めるのは先頭の馬！先頭の馬の鼻先がどちらに行くか注視

○過剰に接近すると馬が走って、競走では人の負け！ジワジワと付かず離れず。

○地元の方言で指示がわからない場合も！？全体の雰囲気の流れを理解！

○手伝いで来ているのに、馬を逃がすと怒られるかも？それが名物の伝統作業。怒られてもめげない、怪我なく楽しんで参加しましょう。

※馬追いでは寄生虫を駆除することで、特に子馬の生存率が大きく改善されます。元気な子馬が育つよう、皆様のご協力をよろしくお願いします。

※お申込み方法や交通アクセスなど、詳細は次回第 2 報でお知らせします。



■宮崎県串間市について

串間市は宮崎県の最南端に位置し、沿岸部は風光明媚な『日南海岸国定公園』に指定され、ワシントンヤシやソテツ、ビロウなど南国の植物と青い海、白い砂浜が、南国情緒あふれる素晴らしい景観を有しています。『都井岬』の他にも、日本のサル研究発祥の地である『幸島』や、希少な動植物が多数生息する『笠紙・古竹草原』と『本城干潟』、全国有数のサーフスポット『恋ヶ浦』、九州最大級の『都井岬テーブルサンゴ群集』など、豊富な自然観光資源が中心市街地から車で 30～40 分の圏内にあり、雄大な自然を身近に楽しめる自然観光都市となっています。

「川南湿原を守る会」が知事表彰を受けました

次回サミット開催地の川南町の「川南湿原を守る会」が、平成 29 年度「宮崎県地域環境保全功労者」として知事表彰を受けました。

同会は、絶滅危惧種で固有種であるヒュウガホシクサの 50 年振りの復活など、長年の保全活動による、湿原環境の改善が評価されました。



表彰式と表彰状

地元小中学生や各種団体の「学びの場」としても大活躍です。

来年度は、串間市・川南町で「全国草原・湿原サミット」が開催されますので、それに華を添える表彰といえます。



川南湿原

全国草原リレー（第15回）

ネットワークの会員を中心に、持ち回りで各地の草原を紹介するのが「草原リレー」です。第15回

は、理事でもある荒尾氏に、霧ヶ峰高原の近況について紹介して頂きます。

草原だより「霧ヶ峰」

（荒尾章子：ネットワーク理事）

霧ヶ峰の短い夏が始まりました。6月にはレンゲツツジが朱色の花を咲き誇り、ノビタキなどの夏鳥が盛んに囀ります。しばらくすると、ニッコウキスゲの花の黄色のじゅうたんが広がり、カワラナデシコやユウガギク、クガイソウなど色とりどりの花が競いあって咲き揃います。そして、あつとゆうまに空が高くなり、マツムシソウ、ヤナギランが先はじめ、次第に秋へと季節が移りかわります。そう、霧ヶ峰は、多種多様な花が見られる花の高原なのです、、と、言いたい！！！！

なぜ、「言いたい！！！！」と書いたかと言いますと、全国どこにでも共通する、あの「ニホンジカ」の食害の問題があるからなのです。霧ヶ峰でニホンジカの食害が問題として認識され始めてから、もう20年近くたつと思います。霧ヶ峰の観光資源の一つでもあり、開花期には、麓から渋滞ができるほど、多くの人の心を引き付けていた、ニッコウキスゲの咲くお花畑は、なかなか見ることができなくなりました。



1990年代のニッコウキスゲなどの群落

10年近く前からは、電気柵や鹿侵入防止柵が設置され、その対策が打たれているところは、たくさんの花が咲く風景が見られるようになりました。しかし、全体からみると、その面積は大きくはなく、また咲き乱れている箇所がパッチ上になっていて、まるで見本園のようになっています。また、電気柵が歩道に沿って設置されている箇所もあり、安全上も



車山肩の電気柵



八島が原湿原の鹿侵入防止の扉

問題があるかもしれません。しかし、まずは、風景はもちろんその風景を作り出してきた種を保全していくことが大切なわけで、残念ながら、私たちは獣害対策を優先せざるを得ません。はからずも、来訪

者が電気柵や侵入防止柵に見ることで、獣害に関心を持つきっかけになってもいるわけで、前向きに捉えられることもできると思います。

草原をめぐる動き (2017 年 7 月～2017 年 10 月)

- 7/1 東お多福山草原 初夏の植物観察会 (場所: 兵庫県神戸市東灘区、連絡先: 兵庫県立人と自然の博物館)
- 7/2 草原の復元作業 1 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局)
- 7/22-23 上ノ原賑わい観察(野鳥)・防火帯刈払い(場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)
- 7/22 秋吉台お花畑プロジェクト 1 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局)
- 8/5 マルハナバチ調べ隊② (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 8/5 千町原夏の草刈り (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)
- 8/10 かややね会議～白川郷で実現する茅(かや)の企画を皆でつくろう (場所: 東京都豊島区上池袋くずのき荘、連絡先: 日本ナショナルトラスト)
- 9/9 マルハナバチ調べ隊③ (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 9/17 草原の復元作業 2～セイタカアワダチソウの

駆除作業～(場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局)

- 9/23 第 12 回全国草原サミット・シンポジウム in 串間・川南大会プレイベント「野生馬を追う! 都井岬馬追い」(場所: 宮崎県串間市都井岬、連絡先: 全国草原サミット・シンポジウム in 串間・川南大会実行委員会)

- 9 月 茅ボッチづくり(日光茅ボッチの会との連携プログラム)(場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

- 10/7 自然観察交流会⑦(場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)

- 10/7 秋吉台お花畑プロジェクト 2 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局)

- 10/21-22 上ノ原の茅刈り(場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

※上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

第 11 回全国草原サミット・シンポジウムの報告書ができました

新温泉町で開催された第 11 回全国草原サミット・シンポジウムの報告書が完成しました。送料等実費(500 円)で配布できます。希望の方は、全国草原再生ネットワーク事務局まで連絡下さい。

全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol. 31 2017 年 7 月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】毎日暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか? ネットワークの総会・理事会に参加されたみなさま、お疲れ様でした。所用にて参加できなかったのですが、草原データベースの整備など、活発な議論が行われたようです。また、土呂部のエクスカッションも好評のようで何よりでした。総会・理事会で出た意見などは、今後の活動に活かしていきたいと思います。